

# 交通の要衝として栄えた今庄宿

## 歴史の足跡

町の総面積の約92%を山林でおおわれている南越前町。嶺北と嶺南との境となる木ノ芽山嶺(南条山地)の峻険な山並みは、古来より北陸道の難所でした。越の国と呼ばれていた奈良時代から、北陸への入り口として都から通じる道は、山中峠越えの最古の北陸道(万葉の道)、木ノ芽峠越えの古代・中世の北陸道(西近江路)、栃ノ木峠越えの北国街道(東近江路)へとルートは変わりましたが、必ず今庄の地を通りました。その地形的・地理的な特徴から今庄は、交通の要衝としてまたは旅人の疲れを癒す宿場町として栄えました。



### 山中峠 (最古の北陸道)

奈良時代、都から北陸に入る旅人達は、敦賀湾岸沿いの幾つもの山並みを上り下りして、杉津・元比田あたりから標高389mの山中峠を越えて鹿藪駅(現南今庄)に至り淑羅駅(現鯖波)を通って越前国府(現越前市)に達しました。大伴家持など万葉歌人にも詠われていることから、山中峠を越える北陸道は「万葉の道」とも呼ばれています。

「へかへるみの 道行かむ日は五幡の  
坂に袖振れわれをし思はば」(大伴家持)

(歌意)あなたが鹿藪の辺りの道を帰って行かれる日には、五幡の坂で袖を振ってください。後に残る私を思ってくださいならば。



### 木ノ芽峠 (古代・中世の北陸道)

平安初期の天長7年(830年)、敦賀から木ノ芽山嶺を抜ける最短路として標高628mの木ノ芽峠を越える新道が開削されました。越前国司として赴任した父・藤原為時と共に旅した紫式部、木曾義仲、永平寺開山の道元禅師、親鸞上人、蓮如上人、南北朝時代の新田義貞、豊臣秀吉らの戦国武将、俳人松尾芭蕉、幕末の水戸浪士など多くの著名人が峠の石畳を通りました。

また、越前に入国した結城秀康によって設けられた番所では、越前の玄関口として前川家歴代当主が通行人の監視にあたってきました。500年以上が経つ今も昔の面影を留める茅葺きの住宅に43代目当主がお住まいです。



### 二ツ屋宿

木ノ芽峠のふもとにあり、古代から近世にわたり宿場町として栄えました。

天明年間(1781～1789年)の戸数は46軒、問屋1軒、旅籠屋5軒、茶屋5軒がありました。

現在の二ツ屋集落は、2km下に全戸移住しています。

### 栃ノ木峠 (北国街道)

天正6年(1578年)、越前北ノ庄城主(現福井市)となった柴田勝家が、織田信長の安土城参勤の最短路として整備しました。

近世に入ると標高538mの栃ノ木峠越えは、今庄、板取中河内、木之本などを通り江戸参勤や伊勢神宮参りなどの幹線道路として往来が頻繁となりました。



### 板取宿

北国街道の越前最南端の宿場として繁盛しました。北端の坂井郡細呂木と並んで重要な関所があり、旅人の監視と検問を行いました。

幕末頃の戸数は53軒、300人、うち旅籠屋7軒、茶屋3軒、問屋3軒がありました。

上板取には茅葺き民家があり当時の面影を残しています。



※山中峠、木ノ芽峠、栃ノ木峠の道は、北に向かう時すべて合流し湯尾峠を越えていきました。(湯尾峠については、P17 観光まちづくり情報にて紹介しています。)

近世の大宿場町 今庄宿

今庄は交通の要衝としての役割を果たし、江戸時代を通して越前でも繁栄した宿場町です。

文化年間(1804)~1818年には、街道に沿って南から北へ上町・観音町・仲町・古町・新町の5町があり、その町並みは約1kmに及び、家屋が櫛の歯のように立て込んでいました。天保年間(1830)~1844年には290余軒、1,300余人、うち旅籠55軒、茶屋15軒、酒屋15軒、娼屋2軒、縮屋2軒、烏屋14軒、問屋3軒、伝馬所、高札場などがありました。

今も道の形や短冊型の屋敷割が殆ど変わっていないこともあり、当時の宿場の面影を留めています。

町では現在、重要伝統的建造物群保存地区選定を目指し、今年度から伝統的建造物群保存対策調査を実施しています。



★今庄観光ボランティアガイド協会 高谷 皓之 会長

平成8年に今庄町観光ボランティア協会として設立。今庄宿や鉄道遺産などの見どころを分かり易くお客様に案内しています。今庄の魅力ある宝を県内外の方々に知っていただき、リピーターとなってもらえるように、おもてなしの気持ちで接しています。また、地域の方々にもふるさとの素晴らしさを再認識していただくことを願っています。



★今庄宿プロジェクト協議会 田中 浩和 会長

地域が主体となって今庄宿ならではの魅力を高め、にぎわいをつくり、住民の暮らしの良さを高めようと平成26年に設立。町並み整備、誘客推進事業等に取り組んでいます。町並みが整備され、にぎわいが生まれ、良い流れができてきた今回の大事業をきっかけに、地域の方々に郷土愛を持っていただき次の世代へと流れが続くことを期待しています。



★一般社団法人旅の宿 今庄 夢乃舎 寺木 利和 代表理事

今庄宿のシンボリックな町屋の一つである旧齋藤家の保存・活用を担うために立ち上がった住民有志らで平成28年に設立。「古民家れすとらん しげじろう」として11月オープン予定です。皆様のご理解の上で新たなスタートとなりますが、今後も皆様のご協力のもと、たくさんの人に喜んでいただける場となるよう精一杯頑張ります。



★NPO 法人今庄旅籠塾 高嶋 秀夫 理事長

今庄の町並みや建物をはじめ景観・歴史文化を保存・継承しようと平成21年に結成。旧旅籠の若狭屋を県内学生と古民家改修し、まちづくりの場として活用しています。まちづくりについて語り合い、人とのつながりを大切に、地域を支えていく人を育てながら子孫に喜んでもらえる今庄をつくり、受け継いでいきたいと思っています。



★今庄羽根曾踊り保存会 赤澤 貞夫 会長

千年の歴史をもつ羽根曾踊りを後世に残そうと昭和8年に保存会が発足。町内イベントでの披露や子供教室で地元小学生に踊りを指導するなど、保存・継承活動を行っています。現在35名の会員のうち男性が4人で年長者も多くなっているため、男性と若い人を増やし、県指定無形民俗文化財でもある伝統の羽根曾踊りを少しでも継いでいきたいです。



「街道で再びつながった宿場町」  
今庄宿をつなげるイベント

「宿場コネクト」

中世から伝わる今庄羽根曾踊りに「今庄朝立ち 木之本泊まり 中河内で昼弁当」と歌われている一節に着目した南越前町地域おこし協力隊の中谷翔さんと長浜市地域おこし協力隊の福原雄太さんが、今庄宿と木之本宿をつなぐ道を歩き旅をするイベントを企画し、9月24日開催されました。今庄宿と木之本宿からそれぞれ出発した参加者は、栃ノ木峠を越えて10里(約39km)の道のりを歩き、お互いの宿場町を目指しました。中間地点の中河内宿では、合流して昼食をとりながら交流しました。参加者は、普段の生活では味わえない景色と思いを感じとり達成感にあふれていました。

